

市長との対話集会

今ある地域資源をどう生かすか

今回提案されたテーマは「地域資源を生かしたまちづくり」。豊かな自然、生活の知恵、地域の文化。都会にはない地域資源とは何か。魅力ある地域づくりとは何か。二つの集会ともに、活発な意見交換が行われました。参加者の皆さんと黒川市長の対話の一部要約して掲載します。



三好市の将来を考える有志の会

少子高齢化、過疎が進行する地域において地域のことを自ら考えようと集まった地元住民の会

【市長】 そうですね。広さだけでなく、四国一、日本一と言われる魅力ある三好市を皆さんと一緒に創り上げたと思います。

【Aさん】 町村合併から10年を迎えようとしています。このまま人口が減り続ければ、近い将来集落が消滅してしまいます。子や孫にこの地域をどう引き継いでいくか考えなければいけません。

【市長】 はい。地方創生を今やらなければ、いつやるのかという思いで取り組んでいます。

【Bさん】 わら草履や木製の弁当箱など昔の人が使った物が見直されています。地元で製品を作り、その技術を継承し、それがちよつと

【市長】 私たちにできることはたくさんあります。高齢者や障害者にやさしく、地域住民が集まることのできる場所をもつとほしいです。

【市長】 四国一広大な三好市には、すばらしい自然などたくさんあります。資源があります。先人が残したものを大切にしなければなりません。

【市長】 三好市を全国にアピールして、若い世代に住んでもらわなければ子どもがいなくなり、交通の不便な田舎では通学や教育環境の充実も必要です。

【Aさん】 伐期を迎えた人工林、耕作放棄が進む農地、集落に残る茶園や畑も地域の資源です。そして何よりも野菜の栽培や農産物加工の技術、生活の知恵を伝承できる高齢者がいます。

【市長】 便利な都会の出生率が必ずしも高いとは限りません。都市部から地方に移り住むイターンが増えています。地域に今必要なのは何か。公共交通の充実か、それとも子育て世帯への支援か。市民自ら考えることが重要です。

【Bさん】 何もなしからこそ自分たちで知恵を絞り、考えて行動するという素晴らしい文化が地域に残っています。

【市長】 そうですね。一、日本一と言われる魅力ある三好市を皆さんと一緒に創り上げたと思います。

【市長】 私たちにできることはたくさんあります。高齢者や障害者にやさしく、地域住民が集まることのできる場所をもつとほしいです。

【市長】 三好市を全国にアピールして、若い世代に住んでもらわなければ子どもがいなくなり、交通の不便な田舎では通学や教育環境の充実も必要です。

【市長】 三好市を全国にアピールして、若い世代に住んでもらわなければ子どもがいなくなり、交通の不便な田舎では通学や教育環境の充実も必要です。

【市長】 三好市を全国にアピールして、若い世代に住んでもらわなければ子どもがいなくなり、交通の不便な田舎では通学や教育環境の充実も必要です。

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

【市長】 大歩危や祖谷を訪れる観光客がつかないほど増えています。外国人観光客をもつと呼び込もうというアイデアは地元の住民から生まれたものです。歴史

三好市総合計画 自然が生き生き、人が輝く交流の郷

基本構想の実現に向けて各種計画が策定されました

地域性を活かし魅力ある煌めくまちを目指して 三好市文化振興基本計画を策定しました



三好市文化振興基本計画策定委員会（委員長 田口太郎徳島大学総合科学部准教授）は、平成25年10月23日から6回の審議を重ね、平成27年3月2日、黒川市長に三好市文化振興基本計画の答申書を提出しました。この答申を受け、平成36年までの10年間の計画として、三好市文化振興基本計画が決定されました。

基本計画は、4章で構成され、第1章では文化資源と文化振興の課題を、第2章では計画の基本的な考え方を、第3章では文化振興のための基本施策について記載されています。また、資料編として三好市の文化資源一覧、文化に対する市民意識調査に関するアンケート結果が掲載されています。今後は、この基本計画を基に、三好市における文化の保存・継承や、市民による多彩な文化芸術活動を促進し、地域の文化振興を進めていきます。

【お問い合わせ先】

三好市役所 地方創生推進課 電話 72-7607

豊かで生き生き、安心安全なまちを目指して 三好市第4期障害福祉計画を策定しました



三好市では、平成24年3月に「三好市障害者基本計画・第3期障害福祉計画」を策定し、障害者の地域生活支援や就労支援の充実など障害者施策の総合的かつ計画的な推進を図ってまいりました。

このたび、「三好市第3期障害福祉計画」が計画の最終年度を向かえ、障害者施策の一層の推進を図るため、新たに「三好市第4期障害福祉計画」を策定し、三好市第4期障害福祉計画策定委員会（委員長竹田公二氏）より2月18日に市長に答申しました。本計画には、「地域における障害者の自立と社会参加」を基本理念として掲げています。今後とも本市が、障害のある人にとって「暮らしやすく、住み続けたいまち」となるよう本計画に基づき、関係者の皆さまと連携しながら、障害福祉施策の推進に取り組んでまいります。

【お問い合わせ先】

三好市役所 長寿・障害福祉課 電話 72-7610

豊かで生き生き、安心安全なまちを目指して 三好市子ども・子育て支援事業計画を策定しました



全国的に少子化が進んでおり、核家族化や地域のつながりも希薄になる中、三好市では、これまでの子育て支援の取り組みをさらに強化・充実させるため、子ども・子育て支援事業計画を策定し、新たな子ども・子育て支援制度をスタートさせることとなりました。

子ども・子育て支援事業計画においては、「ともに育ち ともにほぐむ 次代の子ども～豊かな自然と地域の絆のなかで～」を基本理念を掲げ、未来を担う子どもたちが、「ここに生まれてよかった」「ここで育ってよかった」また、子育て家庭の人たちが「ここに住んでよかった」「ずっとここで子育てしたい」と思えるよう、市民や地域が一体となった、さらなる子育て支援の体制づくりに努めていきます。

【お問い合わせ先】

三好市役所 子育て支援課 電話 72-7648

定住と交流を育むまちを目指して 三好市地域情報化計画を策定しました



三好市は、平成27年3月に「三好市地域情報化計画」を策定しました。三好市地域情報化計画審議会（委員長坂本世津夫氏）は3月19日、諮問のあった三好市地域情報化計画について答申書を黒川市長へ提出しました。

「三好市地域情報化計画」は、情報通信技術（ICT）の利活用による市民生活の利便性向上と地域活性化を実現するための基本的な方針を定めています。今後、限られた財源で医療、教育、産業など地域のさまざまなサービスを充実発展させてゆくために、市民の皆さまとの協働・連携のもと、優先順位、費用対効果も考えながら各種施策を積極的に展開し、地域情報化の推進に取り組んでまいります。

【お問い合わせ先】

三好市役所 情報政策課 電話 72-7641



泰書会
会長 脇博さん

書芸術の向上と地域社会との深い親交を図るためにさまざまな活動を行う書芸愛好家の団体

豊かな自然との共生を

【協会長】 山間部の地域社会は豊かな自然の恵みを受けながら育まれてきました。市内には自然資源が余りあるほど残っており、その資源に磨きをかけ生かすことが必要だと思います。

【市長】 三好市を訪れば人生観が変わるような心に残る自然体験ができる。そしてその経験を市民が共有できたらこの上ないと思います。

【市長】 大歩危・小歩危やかずら橋、妖怪文化なども世界に誇れる素晴らしい資源だと思えます。普段は感じなくても、私たちの身の回りには貴重な資源があるのではないのでしょうか。

【協会長】 今ある自然との共生、共生ができれば、市民が生きがいを感じ、健康寿命を延ばし、医療費の抑制にもつながると思えます。私たちもこれから書芸術を通じて社会への貢献、地域の活性化に役に立つ活動に努めます。

【市長】 まだまだ私たちが気付かない資源が眠っていると感じます。山あいにあふれる豊かな川、木、土といった資源をどう生かすか、都会の人がどう感じるかなど常に考えています。

【市長】 市民の皆さまとの対話は本当に貴重です。地域の文化をどう育てるか、地域の活性化にどう関わるか、よりよい社会をどう構成するか。市民皆さんとともに、取り組んでいきます。ありがとうございます。



元気なまちづくり奨励金制度 支援希望団体を募集します

活力ある地域づくりを進め、自主的かつ継続的に、三好市のまちづくりに貢献すると思われる活動を実施しようとする地区や団体を対象に、申請のあった中から審査選考のうえ、支援する事業です。なお、助成できる団体数には限りがございます。



【申請方法】

三好市地域振興課までご連絡ください。折り返し申込書を送付いたします。

【対象団体】

三好市および地域の活性化に寄与するまちづくり活動を行っている、市民活動団体（ボランティア団体、NPO法人など）や、コミュニティ活動団体（自治会、子ども会、PTAなど）※単年度事業で、過去に交付を受けたことのある事業は対象外となります。

【助成内容】

1事業につき30万円を上限とし、活動経費の一部を支援します。

【募集期間】

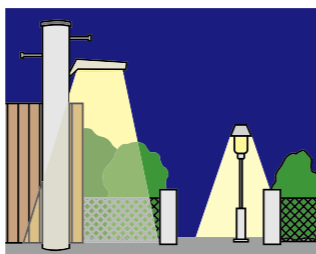
4月10日（金）～5月15日（金）※受付時間は、祝・祭日を除く平日（月～金）の9時～17時です。

【お問い合わせ先】

三好市役所 地域振興課
（電話 72・7649）

防犯灯設置（修繕）補助金についてのお知らせ

三好市では、市内の各自治会が維持管理を行う防犯灯設置・修繕に対して補助金を交付しています。防犯灯の設置・修繕を希望される自治会は指定の申込書によりお申し込みください。



【補助対象となる防犯灯】

○現在または今後、自治会が維持管理を行うもの
○設置または修繕にかかる費用が1万円以上のもの
（注意）申請前に設置および修繕された防犯灯については、補助対象外です。

【補助金額】

○新規に防犯灯（蛍光灯）の設置を行う場合……3万円
○新規に防犯灯（LED）の設置を行う場合……4万円
○既存の支柱に防犯灯（蛍光灯）の設置または修繕を行う場合……1万円
○既存の支柱に防犯灯（LED）の設置または修繕を行う場合……2万円

※補助金の限度額は、同一年度1自治会当たり6万円、補助金額については、1基当たりの上限額です。

その他の詳細などについては、危機管理課までご連絡ください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

三好市役所 危機管理課（電話 72・7625）

三好市国民健康保険にご加入の皆さまにお知らせします

ご利用ください
24時間電話健康相談サービス

医師や専門スタッフが24時間・年中無休で、皆さまの相談にお答えしております。お気軽にご相談ください。

フリーダイヤル

三好市 無休
0120-3444-69（通話無料）

【このようなサービスが受けられます】

健康相談・医療相談・介護相談・育児相談・メンタルヘルスの相談・医療機関情報



【ご利用に際して】

三好市国民健康保険の被保険者の方がサービスをご利用になれます。国外からの相談などはお受けできません。

三好市国民健康保険（委託先：ティーベック）

お問い合わせ先
三好市役所 保険医務課（電話 72-7613）

電源立地地域対策交付金事業により整備をしました

平成26年度の電源立地地域対策交付金事業により、塵芥収集車整備事業（環境課配置2台）、三好市保育所運営事業（西井川保育所）を実施しました。

電源立地地域対策交付金は、電源地域で行われる公共用施設整備や、住民福祉の向上に資する事業に対して交付金を交付することで、発電用施設の設置に係る地元の理解促進などを図ることを目的としています。

お問い合わせ先
三好市役所 地域振興課（電話 72-7649）



電気自動車用の充電スタンド 市内道の駅3カ所に設置

お問い合わせ先
三好市役所 地方創生推進課
（電話 72-7607）



道の駅三野



道の駅大歩危



道の駅にしいや

三好市では「次世代自動車振興センター」および「合同会社日本充電サービス」の支援を受け、電気自動車用の急速充電器（電気充電スタンド）を道の駅の3カ所に設置しました。この事業では、地球温暖化防止の一環として、自動車の排気ガスによる大気汚染を低減し二酸化炭素（CO₂）の削減が期待されるとともに、充電器が市内の各ポイントに設置されることで観光に訪れる利用者の利便性の向上や入込客の増も期待できます。こうした充電スポットを普及する動きは、全国の道の駅やサービスエリア、市内の宿泊施設などでも急速に進められています。今後も各種補助事業を活用しながら、環境に優しい観光地を目指していきます。

【急速充電器の設置場所】

- ・道の駅 三野
- ・道の駅 大歩危
- ・道の駅 にしいや

【利用開始日】5月上旬

【利用料金】有料

日本充電サービス（NCS）や自動車メーカーなどが発行する会員制カード（カード認証）が必要です。

【充電時間】1回の充電時間30分